

首都大学東京 法科大学院

2019年度入学者選抜試験問題 出題趣旨（3年履修課程）

小論文

首都大学東京法科大学院では、複雑な社会現象に高い関心を示し、それを的確に把握したうえで分析・判断するための論理的思考力を有するとともに、自己の思考を的確に表現することのできる学生を求めている。

2018年に実施した法学未修者選抜では、斎藤真「国家創設としての憲法制定——アメリカ憲法制定の文脈」同『アメリカとは何か』（平凡社、1995年）154-176頁を素材として、アメリカ合衆国政府の創設と憲法制定との関係について筆者の考えを読み解き、それを時間や分量の制約の中で過不足なく自分の言葉で表現できるかを問うた。

以上